

Philippe Forest 公開講演会

2017年11月2日 (木)

14h40-16h10

駒澤大学 駒沢キャンパス

154-8525 世田谷区駒沢1-23-1 7号館 3階 307

東急田園都市線「駒沢大学」駅下車 徒歩約12分



作家フィリップ・フォレストを迎えて 量子論小説／科学と文学

フィリップ・フォレスト

1962年、パリ生まれ。作家、ナント大学文学部教授。

1996年、愛娘の死を契機として小説執筆を開始。1997年、長編第一作『永遠の子ども』（フェミナ処女賞）を発表する。その後、日本の「私小説」に影響を受けながら新たな「自己のエクリチュール」を開拓し、多くの小説や評論を発表。文学理論や現代芸術にも造詣が深く、日本文学・文化に関する批評も展開する。2015年に上梓された浩瀚な評伝『アラゴン』ではゴンクール賞（伝記部門）を受賞した。邦訳作品には『永遠の子ども』（集英社）のほか、『さりながら』『荒木経惟 つひのはてに』『夢、ゆきかひて』（以上、白水社）、『シュレーディンガーの猫を追って』（河出書房新社）がある。